

# 歪んだ日本人像を世界に伝え続けていた『毎日新聞』

読むに耐えない『日本の紹介』がネットで世界中に5年以上も流され続けていました。以下にほんの一例を挙げてみます。

- 日本人の母親は中学の息子が入学試験に合格するため、性的関係を結ぶ。
- ハンバーガーを食べる日本の女子高校生達は日本で一番の色情狂になった。
- 六本木の某レストランで日本人は食事の前に、調理される動物とワイセツ行為をする。
- 福岡のおもしろい祭りでは白い液体を顔に塗り付けるので、日本のアダルトビデオ愛好家に大人気。

こんな卑猥な記事を、日本の風俗や習慣の一端であると、海外へ紹介していたのは成人用Hサイトではありません。毎日新聞社が誇る日本最大の英文サイト「Mainichi Daily News」です。毎日新聞社によればサイトの閲覧数は月間最大 2000 万ページビュー。そのようなサイトから歪んだ数多くの日本紹介記事が英文で発信され続けていたのです。とても信じられませんが紛れもない事実です。

毎日新聞の英文サイトの実態が日本国内に広く知れ渡り始めたのは 2008 年 6 月 20 日（金）夜、YAHOO! JAPAN ニュースに「毎日新聞英語版サイト『変態ニュース』を世界発信」という記事が掲載されてからです。大手報道機関では、まず朝日新聞のサイト「asahi.com」が 6 月 24 日 10 時 21 分付で報道。続いて同日中に、読売新聞、産経新聞、共同通信のサイトが下記のニュースを掲載しました。

【24 日の主なネット報道】	朝日新聞	毎日新聞英文サイト英訳コーナー廃止「低俗」批判受け <a href="http://www.asahi.com/national/update/0624/TKY200806240055.html">http://www.asahi.com/national/update/0624/TKY200806240055.html</a>
	読売新聞	みだらな表現に抗議受け、毎日新聞が英文サイト一部閉鎖 <a href="http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20080624-OYT1T00418.htm">http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20080624-OYT1T00418.htm</a>
	産経新聞	毎日新聞が英文サイト閉鎖「低俗過ぎる」と批判300件 <a href="http://sankei.jp.msn.com/affairs/crime/080624/crm0806242004039-n1.htm">http://sankei.jp.msn.com/affairs/crime/080624/crm0806242004039-n1.htm</a> 英語版サイトに「低俗」な日本紹介記事を掲載 毎日新聞がおわび <a href="http://sankei.jp.msn.com/economy/it/080624/its0806242018000-n1.htm">http://sankei.jp.msn.com/economy/it/080624/its0806242018000-n1.htm</a>
	共同通信	毎日が英文サイト一部閉鎖「低俗」と抗議300件 <a href="http://www.47news.jp/CN/200806/CN2008062401000847.html">http://www.47news.jp/CN/200806/CN2008062401000847.html</a>

## 【毎日新聞社の主な対応】（6月25日朝まで）

6月11日	問題を指摘されていた記事を削除	（← この事態が20日に初めてネット上でニュースとなる）
6月21日	紹介していたコーナーを丸ごと閉鎖	（← ニュースで事態を知った人が確認できなくなる）
6月23日午前	サイトのHTMLソースを書き換える ※検索用に「japanese girls」「geisha」「hentai」というキーワードを含めていたのを削除した。つまりそれ以前は、Google等の検索サイトで、前述の単語を入力した人達を「Mainichi Daily News」に誘導する意図があった。	（← 一部、書き換え忘れてたページがあるらしい）
6月23日夕方	サイトに日本語で「お詫び」掲載	（← なぜ日本語だけが掲載されたのか、理由は不明）
6月24日未明	英文でほぼ同内容の「お詫び」も掲載	（← 英文サイトなのだから、これが真っ先にあるべき）
6月25日未明	サイトに日本語で新たな謝罪文を掲載	（← 先の謝罪文と、さほど大意は変わらず。簡略化）
6月25日朝	新聞にサイトと同内容の謝罪文を掲載	（← 経緯を知らない人には意味不明。形式的な謝罪）

新聞で謝罪をすませ、事件をうやむやにして責任を逃れようとしています。詳しくは裏面へ。

事件の詳細は「毎日新聞の英語版サイトがひどすぎる まとめ@ wiki」

<http://www9.atwiki.jp/mainichiwaiwai/>にてご覧いただけます。

どのような記事が配信されていたのかが悲しくなるほどに分かります。記事の内容が卑猥なため、TVで取り上げにくい事件ですが、少しでも多くの人に知っていただきたいと思い、このチラシを作成しました。このような事態を招いた毎日新聞社の新聞を購読し続けるべきかどうか、ご判断いただければ幸いです。

携帯からは、姉妹サイト「毎日新聞問題の情報集積 wiki」<http://www8.atwiki.jp/mainichi-matome/>へどうぞ。すぐ右上のQRコードからアクセスできます。



## 【問題点と対応すべき点】

### 1. 日本の週刊誌に掲載された記事を引用しただけ、という責任転嫁。

24日にサイトに掲載された「毎日デイリーニューズ『WaiWai』についてのご説明とおわび」(<http://mdn.mainichi.jp/culture/waiwai/etc/owabi.html>)では「数年前より、国内の週刊誌などの報道を引用し、日本の社会や風俗の一端を紹介」してきたとあります。毎日新聞社が引用してきた雑誌の多くは「実話〇〇」「実話××」といった、いわゆる成人向けの実話系雑誌。その中の卑猥な記事をあえてピックアップして英文に意訳し、海外発信していたのです。

仮に、実話雑誌のサイトから海外発信したのであれば、胡散臭い記事だと思ふ外国の方も多いでしょう。しかし、そのニュースをわざわざ英文にして配信したのが、日本を代表する報道機関のひとつである大手新聞サイトだとしたら…。たとえば New York Times がタブロイド紙の記事を引用して「アメリカの10代の若者はファーストフードを食べ過ぎ、色情狂が増えている」などと書いたとしたら？

いえ、そんな報道機関は国を代表する組織ではあり得ないことでしょう。

客が獣姦した動物を食べるレストランの記事を、どうして名だたる全国紙のサイトが英文で世界へ発信するのか。実話系雑誌から下劣な記事を選び続けた点にこそ、責任があるはずです。

### 2. 偏った日本紹介の記事を配信し続けた経緯を説明する責任がある。

同「おわび」の文章では、批判を受けたので記事を削除し、サイトを閉鎖、関係者を厳重に処分するとありますが、それで終わりでは済まされない問題です。仮にも日本の四大新聞のひとつとしてジャーナリズムを担う毎日新聞社であれば、記事掲載までの厳重なチェック体制が敷かれているはずでしょう。にもかかわらず、なぜ5年以上にわたって一連の記事が世界へ配信され続けたのか。組織としてのチェック機構がまったく働かなかったのか、それとも組織ぐるみで偏向記事を流し続けたのか。まだ一切の説明がなされないままです。毎日新聞社にはこれらの経緯を説明する責任があります。

### 3. サイト閉鎖と関係者処分だけでは済まない、日本人の汚名返上をすべき。

一番の問題は、日本国内においての謝罪ではないはず。長きにわたって、歪んだ日本人像を世界中にバラまき続けていた悪影響は、考えるだけでも恐ろしいものがあります。日本のイメージを歪曲させた償いとして、全世界に向けて、それこそ各国の大手報道機関がトップニュースで取り扱うぐらいの勢いで、「毎日新聞社は成人向け雑誌の扇情的な内容を報道記事として見なし、あたかも日本の一般的な風俗であるかのように、5年以上も世界中へ紹介し続けてきました」と発信すべきです。全英語圏に知れ渡るまで、イメージ回復を図るよう努力を続け、告知し続けるべきです。これは日本人の恥ではなく、毎日新聞社の恥だったのだと。

度重なる食品偽装での、組織トップによる「部下の責任」発言や証拠の隠蔽。

ミートホープは、船場吉兆は、どう責任を取る結果となりましたか？

問題のサイトをこの世から消し、担当者を処分しさえすれば解決だと

毎日新聞社サイドは考えているのでしょうか？

形式的な謝罪で終わり、ではなく、誠意ある態度で責任を果たしてほしいです。

事件の詳細は「毎日新聞の英語版サイトがひどすぎる まとめ@ wiki」

<http://www9.atwiki.jp/mainichiwaiwai/> にてご覧いただけます。

どのような記事が配信されていたのかが悲しくなるほどに分かります。記事の内容が卑猥なため、TVで取り上げにくい事件ですが、少しでも多くの人に知っていただきたいと思い、このチラシを作成しました。このような事態を招いた毎日新聞社の新聞を購読し続けるべきかどうか、ご判断いただければ幸いです。



携帯からは、姉妹サイト「毎日新聞問題の情報集積 wiki」 <http://www8.atwiki.jp/mainichi-matome/> へどうぞ。すぐ右上のQRコードからアクセスできます。